

平成29年度講演会 野老真理子氏を講師に

「年間300を超える地域活動・清掃活動から学ぶもの」

～地域と共に・地域密着型企業を目指して～と題して講演頂!

平成29年度講演会が、3月7日(火)15時より、総会が開催された横浜商工会議所8階会議室において、当会会員及び市内公募から参加頂いた事業者も含め80名が出席し開催されました。

今回は「年間300を超える地域活動・清掃活動から学ぶもの」～地域と共に・地域密着型企業を目指して～と題して、不動産管理業の傍ら年間300を超えるボランティア活動を行い「カンブリア宮殿等にも出演しています、ユニークな経営者野老真理子氏（大里総合管理(株)代表取締役）(写真右)をお招きし開催致しました。

総会に引き続き事業部員の森優子氏(写真左下)の司会で始まり、当会を代表して鈴木一男会長(写真下2番目)より「当会は、法人を中心に現在80社で構成しています。



7年前に設立し、平成26年にはNPO法人となり、組織も段々充実し、会としては当面100社を目指しています。

目的は、まず自分の会社の中を綺麗にする、特に中小企業はトップをはじめ全員で社内を綺麗にし、そして会社の周囲や町内を綺麗にする、そういう活動をしています。掃除と言うのは強制してやるものではなく、自主的にやることにより、他所のトイレを使った時に、其処に“気づき”が生まれたり、感謝の気持ちが生まれるというような、私は美しい港町と言うのは、掃除をすることにより確かに綺麗になりますが、もう一つは”美しい心”と言うのが一緒についてくるのではと思っています。



横浜市は毎年色々な事業が行われ、外国からも沢山の方々が来られますので、その方達に対し、美しい心の持ち主が沢山おられれば、気持ちよく横浜に来て頂き、リピーターになると思われます。そういう運動をしているのが当会です。年に一度の講演会は、清掃を実践している方に講演頂きその中で何かを学ぶ事を目的にしています。是非、学んで頂けますれば幸いです」と挨拶されました。(以下講演の要旨です)

私が入社した頃は、500人位のお客様でした。

私は社員と共に管理地を増やすことを行い、10年間で6,000人にしました!

「私は現在57歳になります。大学を卒業してこの会社に入りました。父が居ませんでしたので5人の兄弟を母は内職で育てていましたが、内職で高校や大学にやれないという事で、一大決心して母は不動産業に飛び込みました。その不動産会社が倒産したことで大里総合管理会社ができます。

母の苦勞を傍目で見ながら卒業しましたので、迷い無く母の仕事を手伝おうと思い入社しました。九十九里浜は見渡す限り林や田んぼ、空き地が多く、放置されていた空き地を一人ひとり所有者を調べて『ご自身で手入れができなければ草刈をさせて頂けないか』これが我が社の始まりです。

私が入社した頃は、500人位のお客様でした。管理は、50坪くらいの土地を年2回草刈して、年4回パトロールをして異常があれば、直ぐに報告します。また、手作りの新聞を毎月送ります。これらを行い50坪の土地の管理費は年15,000円です。50坪の土地を15,000円で管理し6,000人にした時、母は世代交代をしようと言って34歳の時社長になりました。それから24年の月日が経ちました。

死亡事故を起し加害者の私を裁判に訴えてほしいと被害者にお願いし出来る限りのことはやりました もう一つ再発防止をしなければいけないという事で選んだのが掃除でした！

掃除と言う特徴を持つ会社になるのですが、そのきっかけは、私が社長になって3年目に大事故を起こします。まさか不動産業で死亡事件があるなんて私は想像もつきませんでした。私共が切った木をトラックで引っ張ろうとした時、その農道にバイクが入ってきて、22歳の青年の首にロープが引っ掛り即死をさせてしまうという大きな事件がありました。

私も3人の子供の母親ですので、誰かしらが人様の手にかかって死に至らしめられる事は許せない。反対側にたったとしたらどういう事をするかを想像しながら対応しました。

被害者と保険会社の折衝では、被害者の方が圧倒的に不利になります。ところが裁判にもっていくと、裁判の結論を保険会社は受け止めてくれますので、命の値段が最初の保険金は4,200万円、こんな訳ないと思い、被害者の所に伺い『私を訴えて下さい』裁判で検証したいとお願いし、3年の歳月を要して7,600万円になりました。私はできる限りの事はしましたが、私としてはもう一つ再発防止をしなければいけないという事で選んだのが掃除でした。

後から見れば、何故見張りを付けなかったのか、その瞬間に気づけなかった、そんな指導をできなかった。こういう事で事故を起こしたので、その瞬間に気づく、お客様の声に気づく、こんな訓練をしなければいけないと言う事で、1日1時間掃除をする会社にしました。『お客様よりも、仕事よりも優先して毎日1時間掃除をしよう』当時37歳の私が27名の社員にそんな事を言った事で、半分の社員が辞めました。

社長が「もののけ」にかかった、そんな風に思われたのだと思います。でも、会社を再生させていくという事で、その事に迷いも悩みもありませんでした。毎日1時間掃除をすることで会社を立て直すと思いました。

掃除をして綺麗になった時、綺麗の基準が変わります。全体の基準で綺麗だと言っていたものが、自分が係わったところが基準になる訳で、其処が基準になって周りを見回すと、あそこに蜘蛛の巣が掛かっている、此処も汚れていた、こんな風に認識してその瞬間に気づいたことを形に変えてきました。

掃除に学び、気づくという訓練を積み上げてきた事で今日のテーマに頂いた、

300の地域活動が生まれていきます！

その気づくという訓練を積み上げてきた事で今日のテーマに頂いた、300の地域活動が生まれていきます。掃除をしながら気づいたこと、様々あります。私共の社員の引き出しには同色同種類のペンは1本しか入っていません。何故なら2本入っている必要がないと気づく訳です。そして名前をつけます。名前がついていることでその人の元に返っていく、毎日の掃除で気づいたことを形にしていきました。

スチール机の2.3.4段目には、ものが仕舞われている所ではなく、問題が隠されているところだと気づきました。何故なら、書類は棚に置き、棚から書類を取ってきたら棚に返す、こういう積み上げは1,000以上になります。何処を動かしても埃のない事務所、必要なものが10秒で取り出せる会社に



してきました。と同時に、お客様のニーズ、地域の方々の声も気づき始めて様々な地域活動が展開されます。

例えば本日は7日、7日は「クリーンロードの日」全長2Kmの道を3箇所に分かれて毎月掃除をしています。毎月1日は仕事の範囲の中に13箇所ある駅を掃除しています。毎月土曜日には5箇所の階段の掃除をしています。一つひとつ数えると名前のつく事業が300を超えています。

会社が30周年になったとき、フロアにピアノを置きました。我社は200坪位ですが、昼休みになると地域の方が集まり演奏家の方が30分間演奏を行います。2階には小さなレストランがあります。午前中はヨガ教室になったり、地域の主婦がシェフになってお昼から3時までレストラン、また、学童保育に使ったり、そういう空間になります。会議室も開放をして60人くらいの地域のアーティストの方に1ヶ月1,000円で貸しています。

私共の町は5万人の人口です。会社は年商5、6億ですが43年赤字を出さずにまいりました。社員は私の判断を仰ぐこともなく、本業を6割、後の4割は地域活動を行っています。

**仕事と言う名のもとに、一人の人間が持っている役割、社会での役割、
子育てをする役割、こういうものを「仕事が優先だろ」と奪ってしまう!**

私が一番気づいた事があります。それは企業の本質です。『この仕事が終わるまで帰るな、何やっているんだ』こういう言葉は使いませんが、そういう本質の元に一人の人間が持っている役割、社会での役割、子育てをする役割、こういうものを『仕事が優先だろ』と奪ってしまった。確かに会社の役割、商品が地域の役に立つようにはなっているけれども、企業が地域を、家族を駄目にして、こんな現実を経営者として感じるようになりました。

我社の200坪の建物は、その全てが地域の人に解放されています。何故なら、土地の売買の契約、接遇をしているので、使われていなければ空いている場所がある。地域の人達の役に立つのであれば、土地の契約をしている傍らでコンサートの打合せをしたり、学童保育をしたりしています。こうした事を行っていますので、宣伝広告費にお金をかけることもなく、カンブリア宮殿も含めメディアに17本くらい出させてもらいましたが、何一つ自分のお金を使って会社の宣伝をしたことはありません。結果的に我社の宣伝になっています。これは掃除をやることにより積み上げられたものです。

これはこの世のものではない同じ日本人として何とかしなきゃいけない!

こんな風に思い私たちの会社は動きました!

東日本大震災からまもなく6年になります。九十九里浜も波を被りました。日頃から地域活動をしている私達、あの大きな揺れと共に社員は会社に帰ってきました。社員は私からの指示を仰ぐまでもなく交通整理に行き5つの交差点で交通整理を夜暗くなるまでやりました。

私たちは地域の方達を我社のバスに乗せて地域の2,500人以上の方達を陸前高田を含め被災地にボランティアに行きました。今も続けています。

昼仕事をして夜11時に出発し、明け方着いてから日中いっぱいボランティアをして夜中に帰ってきました。3月19日から始まり、大川小に行った時、被災者に『何をして頂きたいですか』と訊ねると、ある時被災者が亡くなった娘にお雛様飾ってやりたいと話された事から、新聞記者の方に頼み、200組を集め大川小学校に7段飾りの雛壇を6組飾りました。

沢山のボランティアを行いました。『これはこの世のものではない、同じ日本人として何とかしなきゃいけない』こんな風に思い私たちのボランティアはセンターを通さず、個人の方々の話を聴いて、被災者の声に応えて来ました。お金がほしいという声には多額のお金を渡しました。私も100回以上通っていますが、震災で二つの事を学びました。一つは、この世のものとは思えない震災、私たちの会社は一人の命を奪った会社です。人の命の重みを知っています。

その命の重みをバネにして会社を再生してきましたので、2万人という命の重みに、これに答えを出さなければいけない。こう思いでボランティアを行いました。





皆に伝えたいことは『万が一の時は死ななければいけないという事を日本人は受け止めなくてはいけない。自然の大きさに人間はひとかたもないと言う事を覚悟して、自然を尊敬して生きていく。何時の間にか経済優先、科学への奢り、こんな事で原発を怖がらなくなった、もう一度この事を戒めよう』と受け止めボランティアに行ってもらっています。

『万が一生き延びたとしたら、めそめそしないでやれることをやる』こういう事が大事な

んだと思いました。地域の復興状況を見ると、主体的にやった所とやらなかった所の差が復興に表れていると感じました。

私たちは原発の怖さを受け止めなかった。大元の責任は私たちではないのか。電気を使いたくだけ使って好きなだけ使う。こうした声があれば原発もつくる必要がなかった。

原発の問題を自分の事として捉え、最初の1年間は原発が受け持つ量は3割と聞いたので3割を節電しようと思いました。1年経って3割は減らしましたが、平均3割は電気を使わないと生産できない工場や、病院なども含めて平均3割にしないと原発は稼働せざるを得ない。私たちは7割になった電気の使用料を2年目は半分に減らそう、トータルで35%までに落とす方針を出しました。社員の人達は無理だと言いました。環境投資もするからやってみようという事で進めました。

この会社の未来は今と同じように、目の前の情報、見えたこと、

やれることをやり続けるこんな会社になりたい

夜の会議をなくす等、100も200も項目を出して、2年目が終わる時38.7%まで下がった時、社員の一人が『もう止めよう、お客さんに迷惑かけるから』こんな発言をしました。けんけんがくがく会話が入り乱れましたが、トップダウンで『私はあきらめない』と発言したとき、二葉町から来た女性が賛成してくれ皆が同意してくれました。

結果を申しました2年目は32.8%に下げることができ、6年になりますが、20%で推移しています。8割の経費が削減できたという事は、8割無理して働かなくても良い事になります。

こんな事を震災は教えてくれました。紙も50%削減しようと言うことで推移しています。この取り組みを通して社員も私も、どんなに困難があっても出来ると言う事を身につけた気がします。

この会社の未来は今と同じように、目の前の情報、見えたこと、やれることをやり続けるこんな会社になりたい。企業はマネジメント、PDCAの仕組みを持っています。

こんな素晴らしい仕組みを地域の課題に受け止めることでできたら、新しい地域、日本の再生に繋がると思っています。」と話されました。



講師への謝辞も含め藤木久三副会長(写真左)より「色々なセミナーを聴きましたが、本日の講演を聴き、自分自身を見直さなければいけないと思った講演でした。野老様もやはり鍵山先生の掃除の会から学ばれたと伺い、私もその会から学んで美しい港町横濱をつくる会の発足に至りましたが、今日改めて『気づく力と感謝』を思い知らされました。

野老様も身体で実践されている方と感じました。我々も、やれることはやろう、小さな事もやれることは続けることが原点にあると思いますので、皆さんと一緒にこの会を原点から作り上げるように努力したいというのが、講演から感じた事でした。皆さんと一緒に会の発展を原点に戻ってやりましょう」と挨拶されるとともに、講師への再度のお礼を述べ全員の拍手のうちに1時間の講演は閉会となりました。